

常なる磐

つねなる いわ seasonⅢ

令和 4年 6月 10日(金)

その4 通算 242号

◇ 全校体育 四方山話③ ひがしっ子 竹取物語

「ひがしっ子 竹取物語」のナイスショット写真。



一方、求める画像はなかなか見つからない。やっとのことで見つけた写真は、練習時と下見の会のもの。求めた画像は、「ひがしっ子 竹取物語」担当の青木先生だ。子供たちの画像はたくさんあるが、教員はおまけ程度。本当に少ないのだ。



新卒2年目の青木先生が担う紅白対抗競技「竹取物語」2年前から方式を変えている。

	<旧>	<新>
◆大玉運び	・ 下学年	・ 全校 (本年度はなし)
◆騎馬戦	・ 上学年男子	・ 廃止 (危険&密回避)
◆竹取り	・ 上学年女子	・ 1～6年の 全校競技

2年前に女子種目を全校種目に変更した経緯がある中で、男子種目の騎馬戦の競技名：「青木が原の合戦」だけが残っていた。「竹取り」にこの名称は似合わない。ましてや、担当の青木先生が指揮台に立つ「青木が原の合戦」では、まるで言葉遊びをしているようだ。加えて、白組大将が掲げるのぼり幟旗は「かなえ鼎 じょうえもん常衛門」。対する青木先生の名前は「丈之伸(じょうのしん)」。ふざけているつもりは毛頭ないが、やはり遊んでいるようにも見える。

そこで、担当の青木先生に命名を含めた競技種目の改革を任せることにした。ということで今回の四方山話は、「ひがしっ子 竹取物語」を担当した青木先生の話。

<競技名変更> 合戦から「ひがしっ子 竹取物語」へ。ジェンダーフリーの時代にマッチ。

<衣装変更> 野中教員補助員の協力を得て新調した「現代風陣羽織」。頭にかぶっていた紙兜をかみかぶとロング鉢巻きに変更。動きやすさが増して怪我の心配もなくなった。

<幟旗> つぎはぎだらけの幟旗も、紅白の単色旗に変更してシンプルに。教頭先生の取り計らいで、この紅白旗も新調し鮮やかに。

<競技中台詞>古めかしさの残る「大将の口上」から「応援合戦」へ。

勝利チームの勝鬨も、「エイ・エイ・オー」が消え、オリジナル Ver。

新卒2年目と若手の青木先生が講じた大改革が可能となったのは、経験によるところが大きい。

さらに、昨年の運動会で青木先生自身が競技を見て感じたことを記憶として残し、補佐的立場での指導を経験しながらアイデアを温めていたのだろう。だからこそ、変更する具体的なイメージが可能となるのだ。

このイメージはとても重要だ。イメージが明確であればあるほど、子供たちへの指導がシンプルで分かりやすく、明確な指示となる。これが混乱を防ぐ最良の手だてとなり、当然のように子供たちは、迷いなく動ける。相乗効果というやつだ。



装いを新たにした「NEW 竹取り・ひがしっ子 竹取物語」は、当日も大成功。子供の活躍と青木先生の支援で、全校体育授業参観は、いい形で締めくくられた。

見た目も中身も超真面目な青木先生。

以下紙面で、彼の【真面目さ】と【人間味】を感じさせるエピソードを紹介する。

ということで、<全校体育前日の教頭先生との話>

長「竹取りはよくなったねえ。青木先生もよく頑張るとるし、明日が楽しみだわ。」

頭「はい。それで、青木先生の生真面目さを顕著に表した「竹取り」の話がありまして…

長「何、何、興味がありますね。教えてくださいよ。」

頭「練習の時、壇上に上がる前に何かぶつぶつ呟いて、小さなアクションを交えて練習しているんですよ。『違うなあ…』とか言いながら何度も。しばらく様子を窺っていると、どうやら【引き分け判定】の練習をしているんです。」

長「両方の旗を挙げるやつね。何を悩んどったの？」

頭「どうやら自分の下す判定と判定旗を挙げるタイミングらしいんです。彼が目指す完璧な「間」を追究しているんです。傍から見るとあまり変わらないんですけど…。

『引き分け』って言ってから旗を挙げるのか、旗を挙げてから判定するのか、同時なのか、『違うなあ』『違うなあ…』と言いながら、何度も何度もやっているわけです。

小さなアクションを付けて。声をかけるのが悪いくらい真剣で、ほっときましたが。」

長「で、明日はどうするんだろ？引き分けなら。楽しみだなあ、そこも含めて。」

頭「そうですね。絶対見ないといけませんね。」



にもかかわらず、当日は【引き分け判定】の見逃しを後悔する二人(長・頭)なのであった。